

在宅避難を考えよう

自宅に被害がない場合は、避難所に行かずに自宅での生活を続ける「在宅避難」を考えましょう。

避難所は、自宅が倒壊や火災等で大きな被害を受け、住めなくなってしまった人々のために、一時的に開設される生活場所です。

避難所は共同生活のため、居住スペースにも限りがあり、トイレ、プライバシー、健康管理や衛生面も気をつける必要があります。

自宅に住むことが可能な場合は、「在宅避難」でライフラインの復旧を待ちましょう。そのためには、普段から室内の安全対策を行い、飲料水や食料品、携帯トイレなどを備蓄しておくことが大切です。

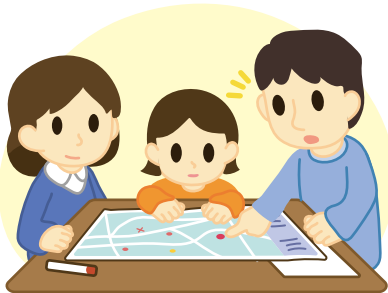
また、震災時は、ご近所同士の助け合いが欠かせません。特に集合住宅の同じフロアの人々とは日頃からコミュニケーションを図り、いざというときに安否確認や助け合いがすぐできるようにしておきましょう。



「在宅避難」するための備えをしっかりとっておこう！

家族で話し合おう

P6



安全な住まいにしよう

P9



普段から備蓄品を用意しよう

P11



自宅で生活するときの注意点

- 節水に努めましょう。水道の復旧にはかなりの時間がかかります。
- 水洗トイレを使うときは、下水管の安全が確認できるまではトイレの水を流さないようにしましょう。
下水管が破損していると汚水が逆流するおそれがあります。
- 震災時であってもごみはきちんと分別しましょう。室内の衛生の維持に気をつけて生活することが大切です。
- 港区防災ラジオ等で、区から発信される情報を常に把握し、不確実な情報に惑わされないようにしましょう。
(港区防災ラジオについてはP.13参照)

普段から地域との関わりを持ち、いざというときは協力しましょう。